

# 酒と烟草を家庭外に

## 放逐す可し

湘陽生

酒と烟草たばこが生理上衛生上有害なものであると云ふことは、今更申す迄もないことであり、尤も現在其甘きに酔ふて居る人と未だ然のみ害を認めない人とは俄に之を排析することには賛成なさるまいとは思ひますが斯る人は心落ちつけて次の記事を読んで戴きたいものです。

別に病氣に罹つたのでも無いのに生れながらにして普通の小兒としての活力もなく、神經力も弱く、人生を餘りに悦ばない性癖せいへきがあり、概して肉體薄弱で從つて其智力及び道徳力も普通の小兒よんべツト劣つて居る小兒が世に數少くありません。其然る原因は種々あり、其親たる者の不道徳なる性癖にも因りませうが、親たる男女の喫煙、飲酒の悪癖も其大なる原因となります。

ドクトルクロウザース氏はヒステリーとか、癡癲けいれん

とか、何でも無い事に怒る性癖とか、感激し易い性質とか、憂鬱性とか、軽々しく信ずる性質とか、疑い深い性質とか、非常な感情的の性質とか、餘り理屈ツボイ性質とかは皆神經衰弱の徴候であると云ひました。而して神經及び腦力の滅殺衰弱は酒精及び藥劑に酔ふ事に原因するものが多いのであります。酒精が神經衰弱を惹起す事は今日一般の學者の一致する説であります。一體衰弱したる神經は刺戟劑を切りに欲する傾きがあります、此時に當り弱くなつて居る意思は直ぐに其要求に従つて刺戟劑を與ふるので、其結果不幸にも酔ふやうになります。若し母の生活状態及び其道徳的所持の悪しかりし爲め其體を弱くし引いて其子女の神經を弱くしたものとすれば、婦人たるものは深く慎み、自らを其不幸なる状態より救ひ出さねばなりません。注意さへ怠りなく其不幸より自らを救ふ事は少しも困難なことではありませぬ。然るに少女にして自ら省みず自ら慎みず、其不幸より救はるゝことを欲はないならば其婦人の晩年が精神上にまた肉體上に甚だ不幸であるばかり

りでなく、可愛ゆき子孫にまでも其不幸を繼承せしめねばなりません。慎みても尙慎み、革めても尙革むべきことではありませんか。

愚鈍、酩酊は不幸にも開けたる國民の間に却て數多いやうであります。こは誠に吾人をして其何故たるかを問はざるを得ざらしむる程に驚くべき事實であります。

一生涯酩酊の事に付て研究せしクローガース氏は

西曆千八百七十年より千八百九十年までに酩酊者が某市の住民の一割以上の比例を以て増加した事實を記して居ます、そして其多數の住民は皆其父か、母か或は兩親の酩酊から遺傳したものであると云つて居ります。之れ實に多數の婦人が好んで酒精を飲用せし悲むべき酬みであります。婦人たるもの深く慎まねばなりません、婦人にして深く自ら之を制し之を用ひないやうにするならば自然に男子の好酒性をも滅殺し、遂には之を禁せさせることが出来ません。社會の花役者たる婦人にして酒精を基たしく嫌惡するやうになりますならば従つて青年男子の好酒性をも滅殺することが出来ま

す。日本では幸にも教育ある婦人で酒に酔ふ様な婦人は餘り多くは認めませんが、内々は盛に飲んでる婦人もある様子です。無教育な婦人等では男子も及ばない位の大飲酒家もあります。酒を飲むことを道徳上より餘り八釜敷言はないものですから、自分ではよしや飲まなくとも友人や夫の飲酒することには丸で無頓著である、間には無頓著どころでなく、酒も飲まないでは男らしくないなど言つて、男子の飲酒を奨励する風さへ往々見受けられる様であります。酒精が血液に混合すれば如何ばかり身體を損傷ふものであるかを知つて居る婦人が至つて少ない。どうしても健康の方面と道徳の方面とより、飲酒の害毒の甚だしきを恐れるやうな心が起らねばなりません。ざりとて私は敢て酒精は一滴たりとも飲用すべからずとは申しませんが、日本の酒の様な弱い酒を適度に用ゆる事は害にはなりません、然し、適度と云ふ事が中々に六ヶ敷問題で、大抵は過度が適度位に思はれるから危険であります。飲酒は第一に社會に害を及ぼす

ものである、之は犯罪の統計表を見れば寒心する程に其害の甚だしきを認むることが出来ます。第二は自らの精神を甚だしく害します、之は諸姉が實見せられて疾く御存じの事でありませう。第三は肉體に其害を及ぼし引きて子孫百代に至るまで其精神及び肉體を傷ふものであります。されば國民の母たらんものは自ら酒精の飲用を慎むは勿論、其夫、其友をして之を慎むやう陰に陽につと

めねばなりません。婦人にして若し飲酒家なる男とは結婚もせず、交際もしないと云ふ位に自らを高め、自ら慎むやうになりますならば、容易に男子の酒癖をも矯正する事が出来、多くの過失より國民を救ふことが出来ます、また花柳の街衢より男子の足を遠ざくることも出来ます。

夫婦共に酒を好む爲めに争ひの絶えない家庭もあるし、妻は飲酒せずとも夫が飲酒するのを拒まない爲めに最愛の夫をして大飲酒家たらしめ、家庭内の風波は常に絶えず、子女の身體極めて虚弱で、年中病人の絶えない家もあります。父が飲酒家た

るため子女も之を真似、一家擧つて酒を飲み、近所隣りにまで迷惑をかけるやうな家庭もありま

す。殊に婦人が酒を飲む癖があれば家庭は實にダラシなくなるものであります。飲酒の弊は如斯に家庭の幸福を破るのみならず、國家の平和國民の幸福を不知不識の間に甚だしく害するものであります。或處に一人の婦人がありましたが、初め其良人と婚約を結ぶ迄は少しも其男に酒癖のある事を知らなかつたものですから深く取調べもせず

に、輕々しく契約致しました、すると愈々式も了つて其婦人が男のものと決まつたことろが男はそろ／＼假面を除け飲酒を始め、花柳の街衢に通ふ様になりましたので、新家庭の樂みと云ふものは全く見ることが出来ず、樂しき希望を抱いて嫁した

婦人は其後何時も泣き暮してをります。折角婦人と生れて未だに家庭の高尙なる快樂を少しも経験する事の出来ないとは誠に氣の毒な事でありませう。而して斯く如き不幸な境遇に陥つて泣き暮して居る婦人は世に少くない事と思はれます。未婚の婦人方は良人を選ぶに當り深く此點に注意せら

れんこと最も肝要であります。

人を酩酊せしむるものは單に酒類ばかりではあり  
ません、阿片、モルヒネ、鹽酸、コカイン、及び  
之と同種類の藥劑はまた危険なものであります。  
而して其害毒は之を服用する個人にのみ止まらな  
いで子孫永久に其害毒を流し肉體、精神を共に病  
的ならしむるものであります、阿片及びモルヒネ  
は醫士が往々之を使用し、病人は之によりて其苦  
痛より容易に免かる、事を経験して居ますから、  
後には之等の藥が身體に如何に有害なるかを知ら  
ずして、自分勝手に之を服用して一時其痛苦を免  
かれんと致します。そして度を重ねるに従つて遂  
には之が習慣となつて何時も之を服用したくなつ  
て參ります。そうすると既に弱くなつて居る意思  
は遂に此慾望に打克つことが出来ず、其欲するが  
儘に素人分量で無暗に之を服用し、かくして自然  
に悪しき習慣を造り、自分の身を亡ぼし、其害悪  
を子孫百代の身體及び精神上に繼承せしむるやう  
になります。

ドクトルロバルトソン曰く精神錯亂、舞踏病、ヒ

ステリー、偏頭痛、飲酒狂、道義心の錯亂、など  
は一として遺傳的傾向なしには偶然に發するもの  
でない、と。

モルヒネの害は酒精の夫れよりも更に大なるもの  
で遺傳の力も酒精の夫れに少しも劣りません、殊  
に道徳力は甚だしく滅殺せらるゝものでありま  
す、モルヒネの爲めに全く溺らされる人或は他の  
之に類する藥品を服用する事の習慣となつた人  
は、とても己れの名譽を保ち、正直にして、意識  
を備へたる人となる事は出来ません。其害毒は漸  
々甚だしくなつて遂には其人の一生を全く朦朧の  
内に葬らねばならぬやうになるものであります。  
ドクトルブラフシユ曰くコカインは阿片の蒸發氣  
を吸入するよりは更に危険で、更に苦しき結果を  
來すものだ、と。  
吾々の日常生活で甚だ危険な事は、勞少くして  
功多からしめんとのみ考へ、其方法を何うかして  
講究したいとあせる結果、何時しか其氣力を増益  
することはおろか、却つて其力を消耗しつゝある  
ことであります。

ニコア、チコレート、コーヒ、茶及び之に類する飲料を用ふれば一時氣力が増進せられたかの如くに考へられますが、其實は反對であつて既に貯藏されて居る資力をまで無暗に消費して結局神經の破産を來すやうになるのであります。親が一度神經の破産即ち神經の常軌を失ひ神經的種々の病氣にかゝりますと、遺傳の方則に従つて其子々孫々の幸福をまで破ることにあります。されば各々日々の生活に深く注意し、之等の害多くして得少なき飲料を用ふる事によりて我家に悪しき血統を創造しないやうに堅く慎まねばなりません。今日の世の中で最も危険なる然も最も普通な習慣は煙草を喫する事でありませう。喫煙は丸で一種の必要物の如くに思推され、之を爲すこそ普通の事なれと云はんばかりに一般に行はれ、政治家でも、實業家でも教育家でも、労働者でも之をやつて居ます、彼等多くの者の間には煙草の有害な事は明かに認めながら其悪習慣より脱し得ない薄弱者も多くあります。煙草は科學的研究の結果甚だ有害なものでありまして心臓、咽喉、神經など一

として害を受けないものはありません、而して其害毒は喫煙者の子女の身體及び精神にまでも恐るべき害毒を遺傳するものであります。罪なき子女等が神經衰弱に苦められ消化器官の不良に痛みを覺ゆる原因は其母たる婦人が其欲するが儘に喫煙したる度に正比例するものであります。婦人たるもの大に戒心せねばなりません。米國の或統計によれば、かの南北戦争の頃は徵兵検査を行ふに當りて不合格者は僅かに全壯丁の一割三分であつたが此頃では不合格者が二割一分ありと云ふ事でありませう。殆んど以前よりは三倍の壯丁が兵隊としての勤務に堪ゆる能はざる程に悪い體格になつて居ます。之れ如何なる原因となつて居ると云ふことであります。また數年前アンナボリスの海軍兵學校のハウストン少佐は、同校入學を許可せらるべき生徒にして心臓病の爲めに拒絶されたものが全員の五分の一にして、其九割は喫煙の結果心臓を損傷つたものなることを記載しました。ヒステリーや憂鬱病や、肺病や、一寸坊の様に小

さな不恰好な體格や、喫煙者の子女等が苦痛の一生を終る事や、早逝するやうな事は皆其父母より繼承せし肉體の虛弱なるに基因するものであります。

或處に極く考へ違ひの娘がありまして、大の煙草好きな男と結婚しました。すると子を産むやうになつたところが、産んだ子は死に、産んだ子は死に、三人まで死にました。是等不幸なる三人の子供は皆幼兒の麻痺で倒れました。之れ其良人が大の喫煙家であつた爲めに其害毒が小供等の身體を殺したのであります。其婦人は初めて自分が喫煙家と結婚した事の間違つて居たことに氣付きました。そして死んだ子供ばかりでなく自分が毎日毎夜其良人の喫する煙草のニコチンで中毒された室内の空氣を呼吸して甚だしく苦められ、遂には其健康までもいたく害せられたことに覺醒し、如此の喫煙者と結婚した事を深く悔い、悲しき一生を送つたと云ふことであります。

### 蚊 と 蚤

神尾 驥子

世の中には吾等人間に危害を加ふる昆蟲所謂害蟲は決して少くはありませぬ。あぶ、はい、はち、毛蟲等は皆害蟲に屬するものでありまして直接間接に人體に害を興へます。例へば蠅は傳染病毒を傳播する危険な媒介者となり、毛蟲は其成蟲こそは罪もなく空中に飛翔する美しき蝶でありますが幼時は種絲野菜其他の植物の葉を食ひ盡して大害を興へます。また「うんか」と申します昆蟲は稻作に大害を醸す害蟲であります、併し是等は何れも間接に人間に害を興ふるものでありませんが、蚊と蚤とは直接に人間を襲ひ、其血液を吸ふて生活する、いはば恐るべき害蟲であります。

蚊と蚤とは一寸見た所では一方は翅を以て空中を飛翔し、一方は長い強い足を以て跳びまはり、一方は灰色がかつたうす穢い蟲で、一方は眞赤なすべくした蟲でありまして、大層異つた蟲でありますが、動物學から見ます時は雙方共に人の血液

— 〆 —